
12 品目別調査結果 ヒラメ

1. 概況
2. 調査実施概要
3. 各取引段階の“量”の変化
4. 各取引段階の“価格”の変化
5. 福島県産品に対する認識

1. 概況

359

調査結果概要 (1/3)

1. 各取引段階の“量”の変化

出荷段階

- 福島県産ヒラメの漁獲量は、令和元年度には、平成30年度より144トン(約36%)増え、平成22年度の約73%まで回復している。
- 福島県の漁獲量のシェアは、震災後に茨城県や千葉県を下回るようになったが、平成30年度以降には2県を上回った。

卸売段階

- 首都圏の市場、特に東京都中央卸売市場では、年間を通して福島県のヒラメが流通している状況であった。
- 東京都中央卸売市場における10月の福島県産ヒラメのシェアは、試験操業で出荷が再開された平成28年以降に回復し、令和元年には平成21年のシェアを上回った。

360

2. 各取引段階の“価格”の変化

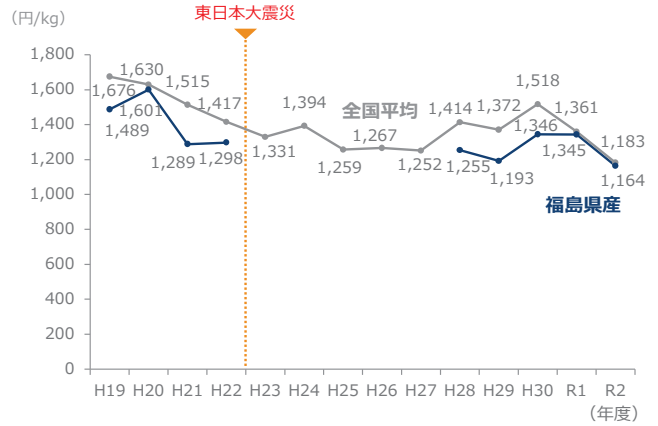
市場における状況

- 東京都中央卸売市場での福島県産ヒラメの取引価格は、ヒラメは、試験操業で出荷が再開された平成28年以降、平成22年度と同様の価格水準を推移している。
- 全国平均価格との価格差は着実に回復に向かっており、令和2年度では全国平均とほぼ同様の価格になった。

個別事例における状況

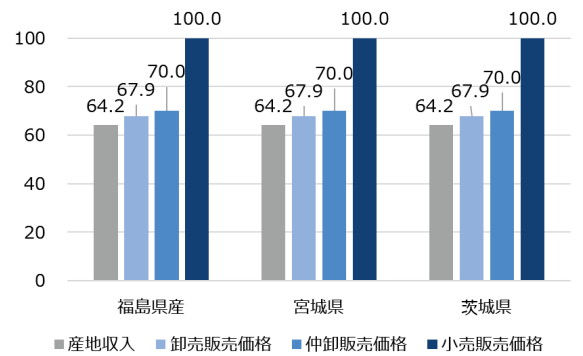
- 福島県産と他県産を併売している小売業とその納入先から価格を入手した。
- この事例では、福島県産と他県産で価格形成に明確な違いは見られなかった。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

ヒラメの価格形成事例



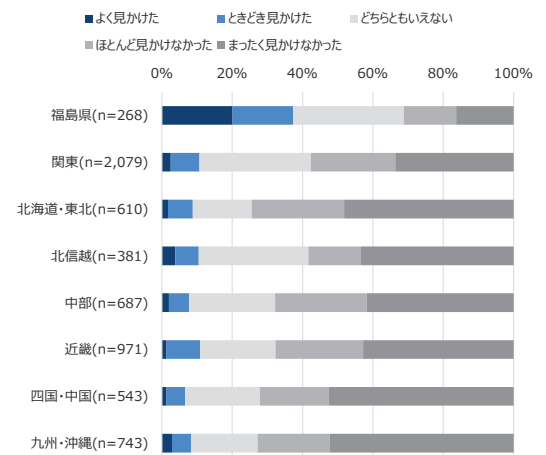
※数値はそれぞれの調査時点で、小売販売価格を100とした指数。 361

3. 福島県産品に対する認識

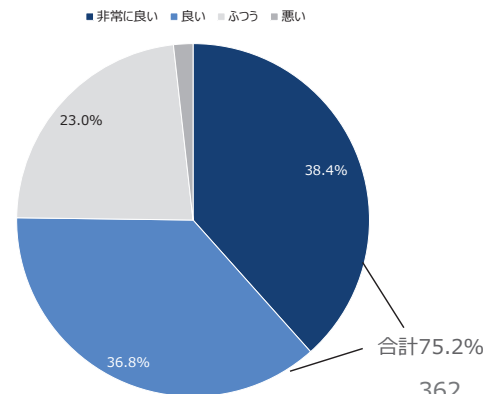
消費者の反応

- 福島県産ヒラメをよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では5%に満たない。
 - 福島県産ヒラメを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では2.0%であった。
- 福島県産ヒラメの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が75.2%であった。

福島県産ヒラメを店頭で見たか



福島県産ヒラメ購買者の評価 (n=209)



2. 調査実施概要

363

調査の全体像

概要調査として政府統計等を整理し、全体像を把握した。また、消費者へのアンケート調査により、消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握した。さらに、取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、推移の実態を分析した。

	概要調査	アンケート調査	追跡調査
概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 統計情報を整理し、生産・流通の実態を把握。 市場での動向については、競合県産品との比較分析を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 消費者の福島県産品の購買実態や評価を把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問面接により取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る調査を実施し、事例を分析する。 他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
調査対象	<ul style="list-style-type: none"> 行政機関の政府統計。 卸売市場データ。 	<ul style="list-style-type: none"> 全国の消費者。 (11,000人) 	<ul style="list-style-type: none"> 小売業に流通するヒラメ。 福島県産以外に他県産も扱う事業者を対象に含める。
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産ヒラメの出荷量。 卸売市場における取扱量と、競合県産品と比較したシェアの推移。 卸売市場における取引価格の競合県産品との比較。 	<ul style="list-style-type: none"> 福島県産ヒラメの視認経験。 福島県産ヒラメの購買経験。 ヒラメ購買時の重視点。 福島県産ヒラメの評価。 	<ul style="list-style-type: none"> 流通ルートを抽出し、取引価格の追跡調査(各取引段階における関係者からの個別データ収集)を行う。
各節との対応	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">各取引段階の“量”の変化</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">各取引段階の“価格”の変化</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">福島県産品に対する認識</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">各取引段階の“価格”の変化</div>

364

各データを入手・分析し、最新の傾向を比較した。アンケート調査と追跡調査については、独自に情報を収集した。

概要調査
使用データ

- 農林水産省「漁業・養殖業生産統計」。
- 首都圏・関西圏・名古屋・札幌の各市場の統計データ。

アンケート
調査

- 全国の消費者にWebアンケート調査を実施。
 - 11,000件を回収・分析を実施した

追跡調査

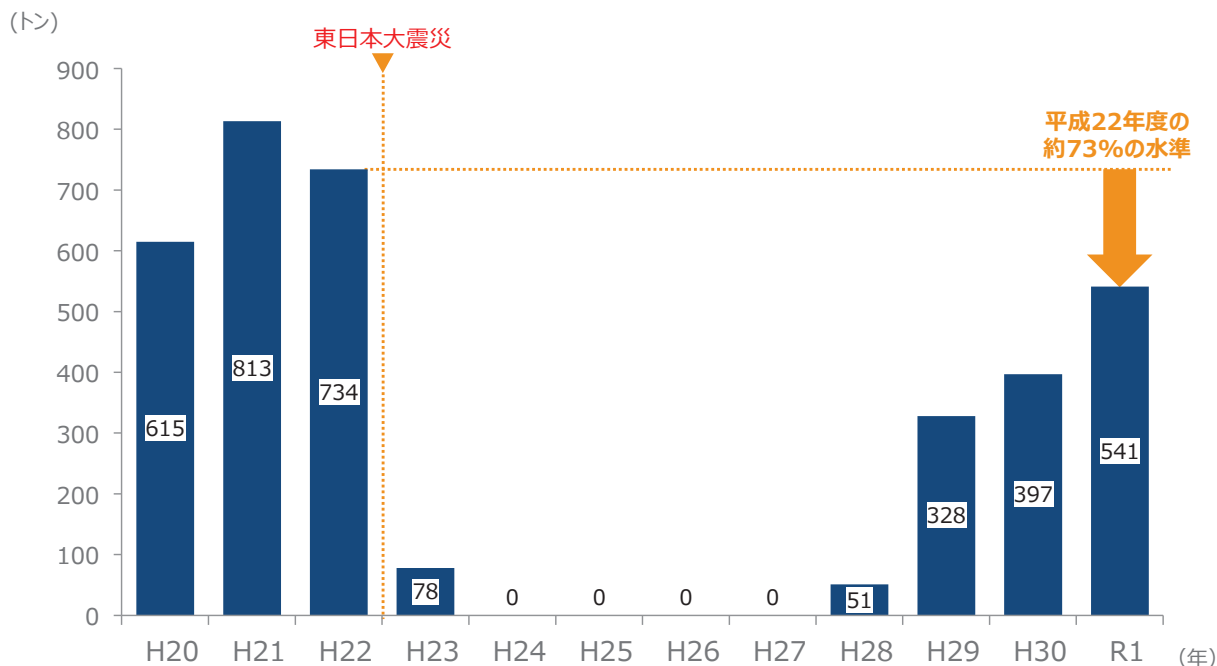
- 首都圏の小売業へ流通するルート：1ルート。
- 福島県内の小売業へ流通するルート：3ルート。
 - うち1ルートは他県産の価格も収集。

3. 流通経路の変化

福島県産ヒラメの漁獲量の推移

福島県におけるヒラメの漁獲量は、震災直後大幅に減少した後、漁獲がほぼない状態で推移したが、令和元年度には、平成30年度より144トン(約36%)漁獲量が増え、平成22年度の約73%まで回復している。

福島県におけるヒラメの漁獲量の推移

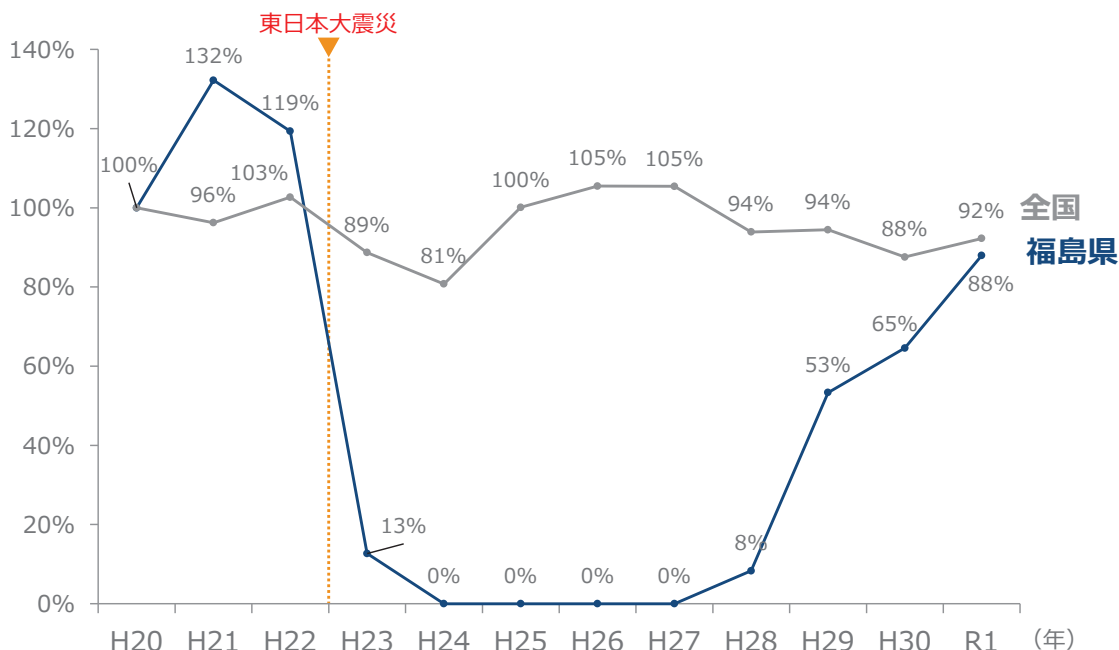


データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

福島県産ヒラメの漁獲量の推移

福島県におけるヒラメの漁獲量は、震災後の平成23年度から大幅に減少し、その後ほとんど漁獲がない状態で推移していたが、令和元年度には平成20年度の88%程度まで回復してきている。

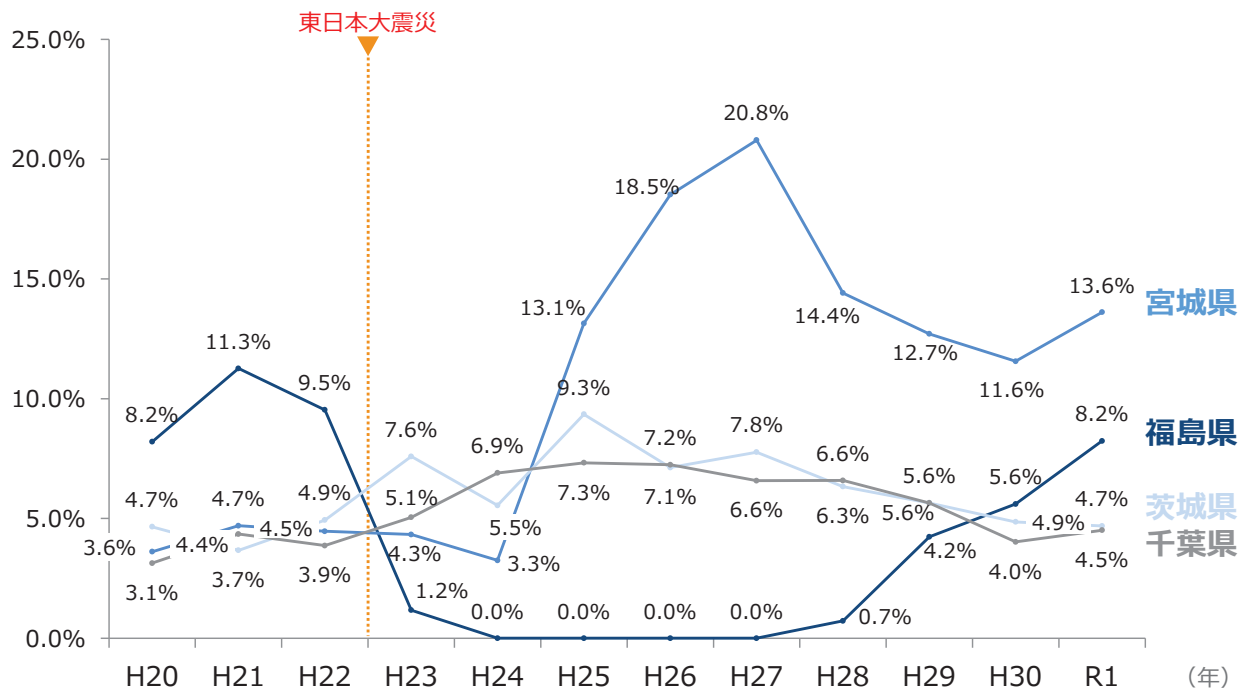
全国と福島県におけるヒラメの漁獲量の推移（平成20年度を100%とした値）



データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

ヒラメの漁獲量において震災前に10%前後であった福島県産ヒラメのシェアは、震災後に0%まで下がったが、令和元年度には8.2%となり、茨城県産・千葉県産を上回った。

福島県・宮城県・茨城県・千葉県の4県におけるヒラメ漁獲量のシェアの推移

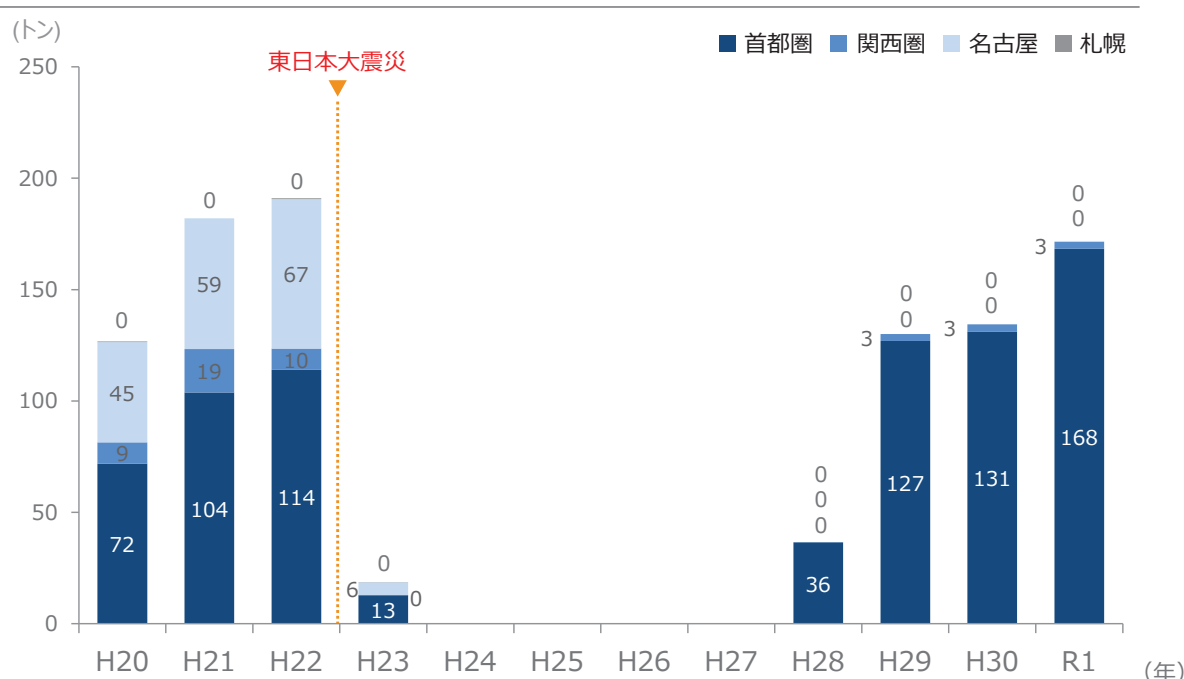


データ出所：農林水産省「漁業・養殖業生産統計」

各市場における福島県産ヒラメの取扱量の推移

卸売市場における福島県産ヒラメは、震災以前は主に首都圏と名古屋で取引されていた。平成27年以降に漁獲量が回復を始めてからは、名古屋での取扱いがなくなり、首都圏に集約されている。

各市場における福島県産ヒラメの取扱量の推移



データ出所：各卸売市場の統計データ ※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

数値ラベルは、下から首都圏、関西圏、名古屋、札幌の取扱量を表す

各市場におけるヒラメの産地リレー(令和元年産・首都圏)

東京都中央卸売市場では、5月と7月を除いて、福島県産ヒラメのシェアが3位以内であった。また、横浜市中央卸売市場では6月・11月に福島県産ヒラメのシェア1位であった。

各市場における産地リレー(令和元年産)

各月で市場シェア1位~3位の順に

■ ■ ■ で色付け

東京都中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	19%	19%	11%	17%	11%	11%	9%	16%	19%	18%	26%	18%	132
宮城	7%	5%	2%	3%	22%	44%	53%	27%	7%	9%	8%	8%	180
青森	27%	11%	7%	16%	25%	22%	18%	16%	28%	28%	27%	18%	176
北海道	9%	1%	1%	1%	7%	8%	9%	10%	21%	24%	13%	28%	95
千葉	7%	10%	26%	25%	14%	3%	2%	6%	3%	2%	3%	8%	74
総量	61	58	57	58	103	146	96	46	35	52	60	100	

横浜市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	13%	8%	3%	6%	15%	23%	11%	8%	11%	14%	19%	14%	37
千葉	15%	8%	18%	22%	20%	6%	4%	8%	3%	4%	1%	15%	31
東京	12%	9%	6%	14%	9%	6%	8%	15%	20%	19%	13%	7%	31
茨城	4%	8%	11%	9%	10%	5%	11%	19%	10%	13%	16%	14%	31
宮城	7%	3%	1%	5%	12%	22%	23%	4%	2%	1%	4%	4%	25
総量	24	26	27	25	26	37	28	18	17	18	19	29	

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の統計データ

371

各市場におけるヒラメの産地リレー(令和元年産・関西圏)

大阪市中央卸売市場では、年間を通して、福島県産ヒラメの取扱いはわずかであった。京都市中央卸売市場では、年間を通して、福島県産ヒラメの取扱いが見られなかった。

各市場における産地リレー(令和元年産)

各月で市場シェア1位~3位の順に

■ ■ ■ で色付け

大阪市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	1%	0%	0%	0%	1%	2%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3
韓国	57%	43%	42%	36%	31%	25%	36%	51%	68%	63%	60%	56%	345
鹿児島	19%	23%	27%	18%	20%	26%	17%	14%	2%	0%	8%	14%	117
大分	4%	12%	13%	14%	14%	7%	11%	11%	7%	4%	6%	12%	69
長崎	8%	5%	4%	2%	1%	3%	3%	16%	14%	12%	5%	1%	43
宮城	0%	0%	0%	0%	5%	17%	26%	3%	0%	0%	0%	0%	35
総量	64	54	52	54	60	71	67	62	55	53	62	79	

京都市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
宮城	6%	6%	5%	5%	18%	47%	52%	37%	9%	21%	17%	16%	61
香川	20%	16%	15%	19%	16%	8%	14%	30%	43%	24%	21%	13%	52
長崎	29%	41%	45%	28%	4%	1%	0%	0%	0%	0%	1%	3%	41
島根	13%	4%	3%	10%	7%	0%	0%	0%	9%	13%	19%	13%	23
北海道	1%	1%	0%	0%	4%	9%	12%	5%	11%	12%	7%	20%	22
総量	28	27	26	22	24	36	26	15	10	18	23	42	

※福島県及び年間取扱量上位県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

データ出所：各卸売市場の統計データ

372

名古屋市中央卸売市場、札幌市中央卸売市場のいずれにおいても、年間を通して、福島県産ヒラメの取扱いが見られなかった。

各市場における産地リレー(令和元年産)

各月で市場シェア1位~3位の順に

■ ■ ■ で色付け

名古屋市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
兵庫	31%	34%	30%	34%	26%	18%	19%	22%	14%	11%	19%	21%	188
宮城	7%	3%	3%	5%	29%	43%	40%	21%	29%	25%	20%	17%	174
愛知	19%	14%	11%	14%	13%	12%	14%	22%	20%	30%	16%	12%	128
大阪	6%	5%	6%	4%	0%	0%	6%	12%	14%	12%	13%	10%	55
北海道	6%	0%	0%	0%	10%	16%	5%	0%	1%	1%	3%	22%	55
総量	64	55	64	62	79	99	71	64	51	48	59	98	

札幌市中央卸売市場

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
福島	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0
北海道	83%	44%	43%	68%	97%	98%	97%	95%	97%	97%	97%	94%	418
愛媛	9%	17%	22%	14%	2%	1%	2%	5%	3%	3%	3%	4%	21
鹿児島	3%	12%	12%	8%	1%	1%	0%	0%	0%	0%	0%	2%	8
千葉	2%	5%	12%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	1%	0%	0%	4
長崎	1%	8%	5%	3%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3
総量	22	17	14	19	75	84	42	24	28	35	30	68	

データ出所：各卸売市場の統計データ

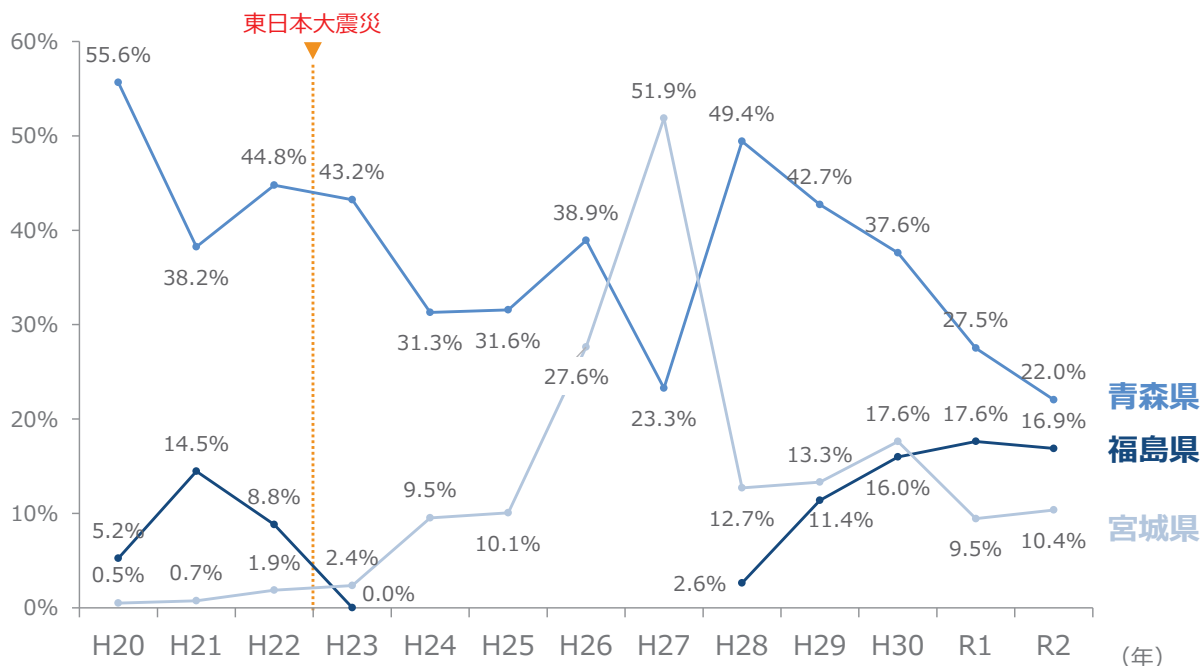
※福島県及び年間取扱量上位県を表示。
※総量・合計の単位はトン。

373

東京都中央卸売市場における福島県産ヒラメのシェアの推移

東京都中央卸売市場の10月の福島県産ヒラメは、平成27年からシェアが上昇に転じ、平成30年には平成21年のシェアを上回り、その後横ばいに推移している。

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産のシェア(10月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

※ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

374

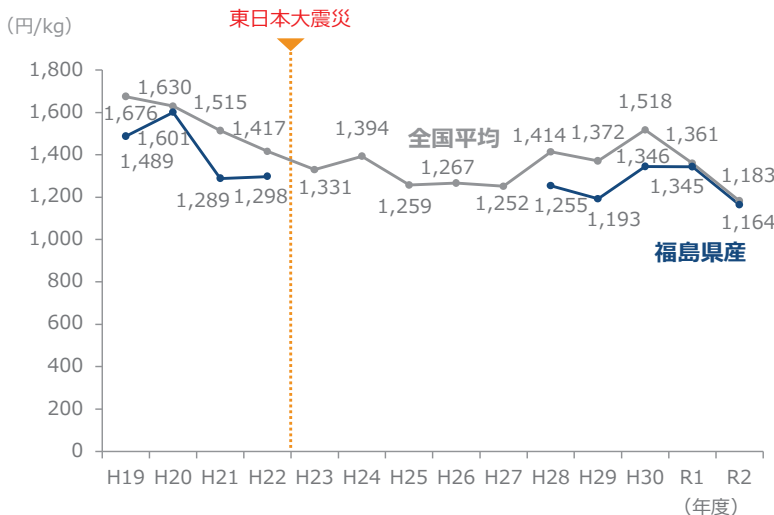
4. 価格形成の動向

375

福島県産ヒラメの価格回復概況（全国平均との価格差）

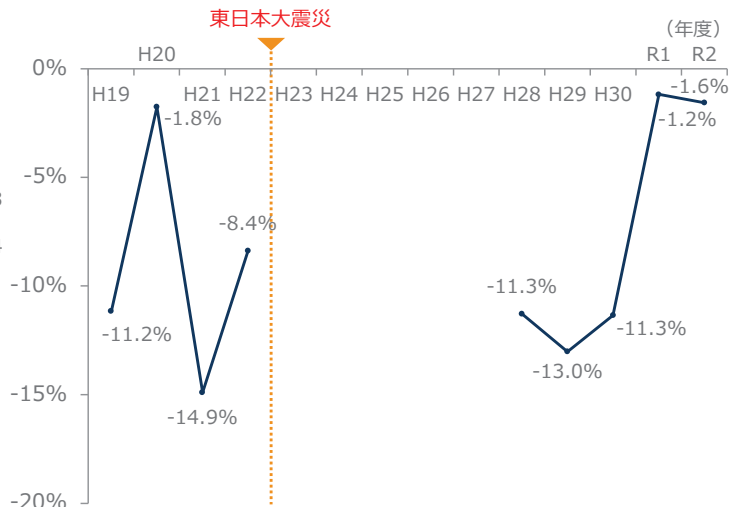
東京都中央卸売市場での福島県産ヒラメの平均単価は、震災直後に大きく下落した後徐々に回復。令和元年度以降は全国平均が低下したこともあり、全国平均と同程度の平均単価となった。全国平均価格との価格差は縮小傾向にある。

東京都中央卸売市場における平均単価の推移



※令和2年度は、令和2年12月までの実績を使用。

全国平均と福島県産の価格差の推移



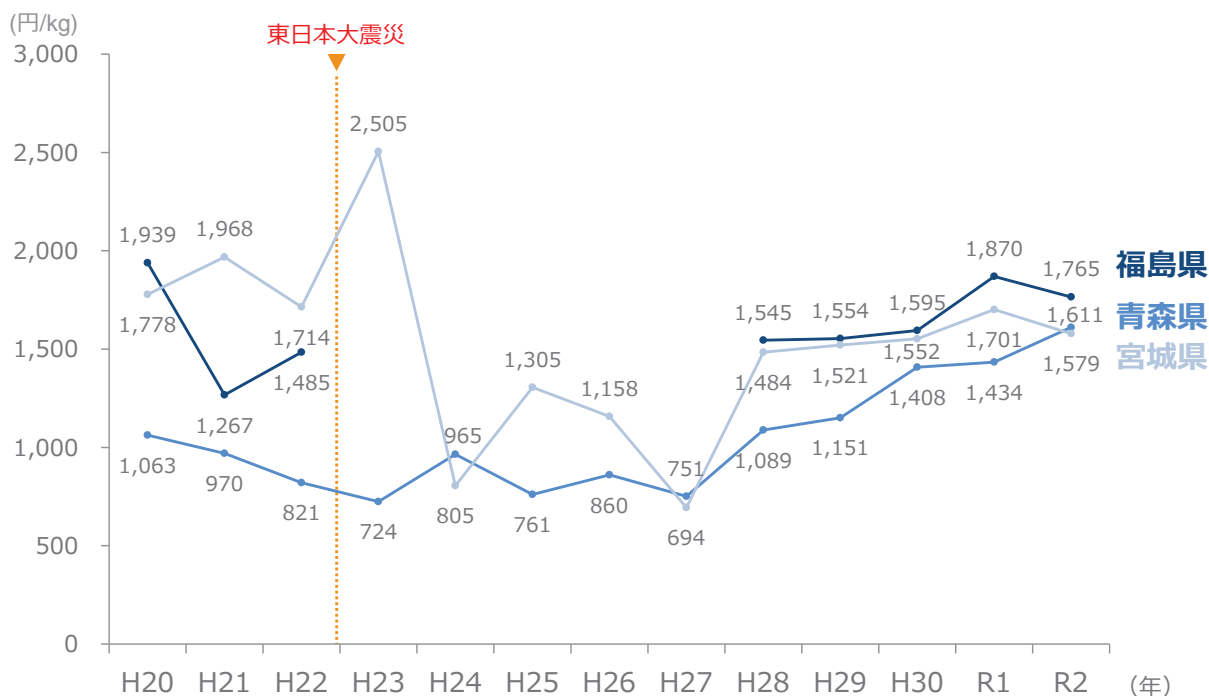
※福島県産と全国平均の価格差を、全国平均の価格で割った値。
例えば、福島県産が全国平均より1割安ければ-10%となる

※ グラフ中の「福島県産」は福島県内の事業者が市場出荷した水産物に関する集計値を表し、他県で漁獲され、福島県内の事業者が出荷したものを含む。

※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

東京都中央卸売市場の10月の福島県産ヒラメの平均単価について、平成22年は宮城県産の平均単価の方が高かったが、試験操業が開始した平成28年以降は、宮城県産より平均単価が高くなっている

東京都中央卸売市場における福島県産及び競合県産の平均単価(10月)



データ出所：東京都中央卸売市場「市場統計情報」

※ ヒラメは、平成28年に試験操業の対象魚種となり出荷が再開された。

377

価格形成に関する事例調査(追跡調査) の概要

価格形成に関する事例調査(追跡調査)を行い、福島県産ヒラメの価格形成に関する分析を実施した。

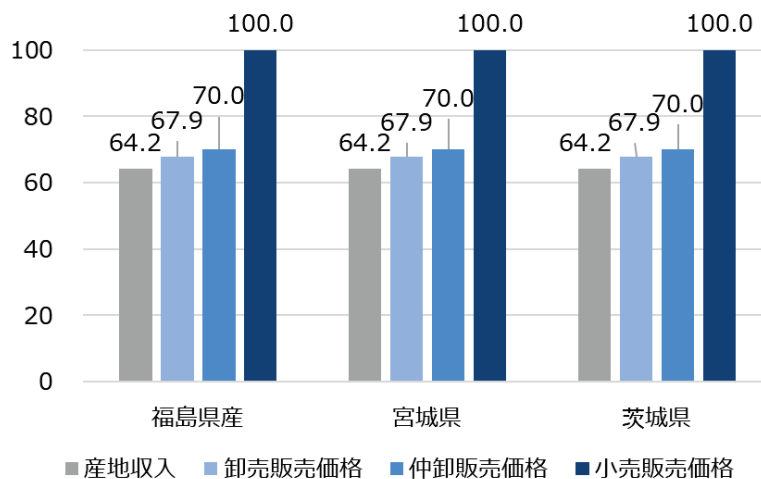
概要

概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> 取引段階ごとの取引価格、販売価格に係る情報を収集し、価格形成の実態を把握する。 他県産の同品目についても調査の上、比較分析を行う。
対象商品	<ul style="list-style-type: none"> 小売業で丸魚、切り身または刺身として販売されたヒラメ
対象期間	<ul style="list-style-type: none"> 期間：令和2年11月～令和3年2月
調査ルート	<ul style="list-style-type: none"> 首都圏の小売業へ流通するルート：1ルート。 福島県内の小売業へ流通するルート：3ルート。 <ul style="list-style-type: none"> うち1ルートは他県産の価格も収集。

ヒラメの価格形成事例 1

- 福島県内の鮮魚チェーン店の事例。
 - 卸売業者と仲卸業者の手数料率・値入率は固定されており、どの産地の産品でも同様であった。
 - 小売販売価格は、概ね小売利益率が30～35%となるよう設定されており、今回取得したデータでは産地間で同一であった。
 - 値付けの方法は産地を問わず共通しており、福島県産と他県産の価格形成に、明確な差異は見られなかった。

ヒラメの価格形成事例



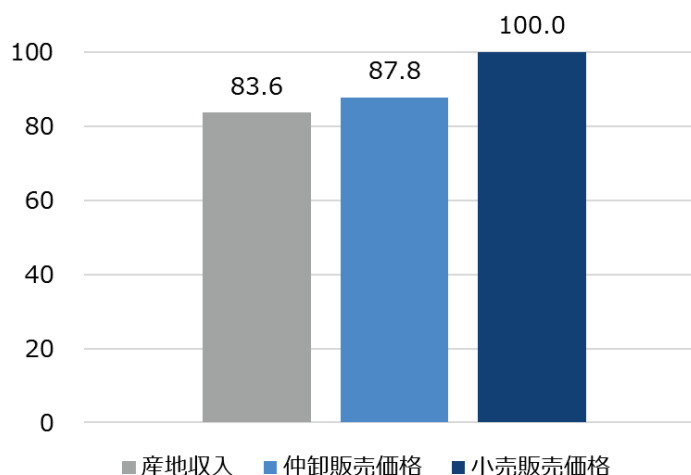
※本事例における「産地収入」は、卸売会社の仕入価格であり、産地仲卸業者の販売価格を指す。

※数値は小売販売価格を100とした指数。
 ※数値は3回調査をした平均値。

ヒラメの価格形成事例 2

- 福島県内において、地元の漁港からヒラメを仕入れている鮮魚店の事例。
 - 価格はすべてキロ単価で入手したが、小売業者は1匹を5枚おろしたものを販売しているため、加工により1匹当たりの重量は減少している。
 - 調査時は相場高であり、小売業者のマージンは大きくなかった。
 - この小売業者は、相場が上昇しても、小売販売価格を大きくは引き上げないとのこと。
 - 仲卸販売価格は、産地収入に5%を加えた金額で固定されていた。

ヒラメの価格形成事例 2



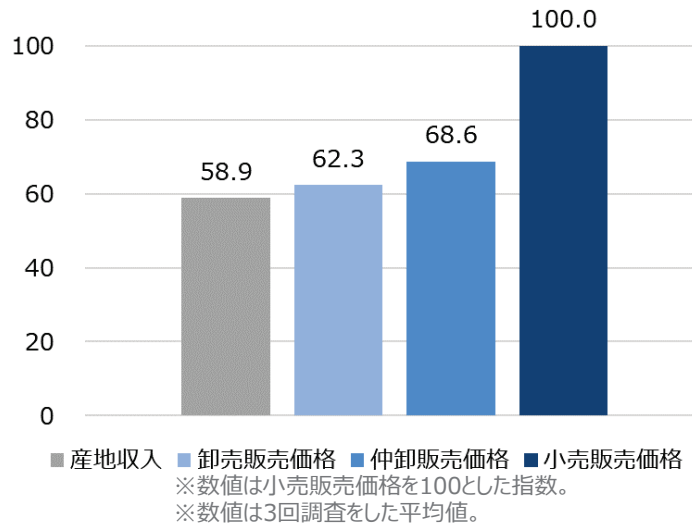
※本事例における「産地収入」は、漁協から仲卸業者への販売価格を指す。

※数値は小売販売価格を100とした指数。
 ※数値は3回調査をした平均値。

ヒラメの価格形成事例3

- 福島県内の量販店に至る事例。
 - 「産地仲卸業者→消費地市場卸売業者→消費地市場仲卸業者→小売業者」という、典型的な鮮魚流通の価格形成を追ったもの。
 - この事例で小売業は、仕入価格が変動しても小売販売価格を変えていなかった。
 - ・ 大きく仕入価格が変わらない限りは、小売価格を変動させない方針とのこと。
 - 卸売販売価格は、産地収入に5.5%を加えた金額で固定されていた。

ヒラメの価格形成事例3

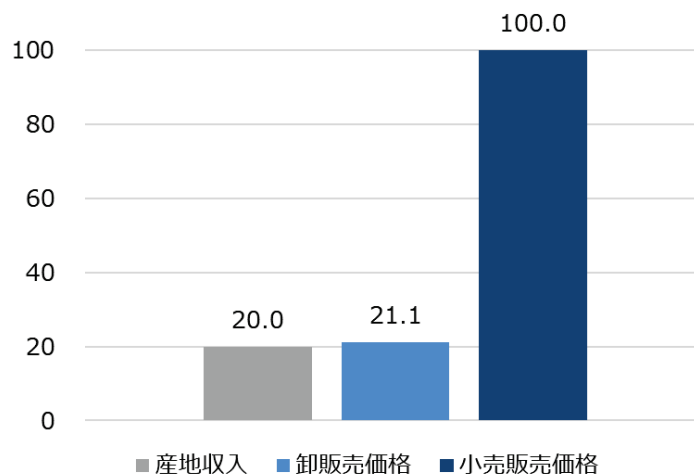


※本事例における「産地収入」は、卸売会社の仕入価格であり、産地仲卸業者の販売価格を指す。

ヒラメの価格形成事例4

- 首都圏を中心に全国展開している鮮魚チェーン店の事例。
 - この事例で小売業者は1匹を数枚におろしたものを販売していた。
 - ・ 加工にあたり紫外線の照射をして殺菌を施していることや刺身用に加工していることで、小売業者のマージンは大きく設定されていた。
 - ・ 卸売販売価格は、産地収入に5.5%を加えた金額で固定されていた。

ヒラメの価格形成事例4



※本事例における「産地収入」は、卸売会社の仕入価格を指す。

※数値は小売販売価格を100とした指数。
※数値は3回調査をした平均値。

調査をした福島県内の小売業者では、仕入価格に大きな変動がない限り、小売販売価格の変動を抑えるため、小売販売価格の大幅な変更は行わない傾向にあった。また、本調査では、競合産地との明確な価格形成の違いは確認できなかった。

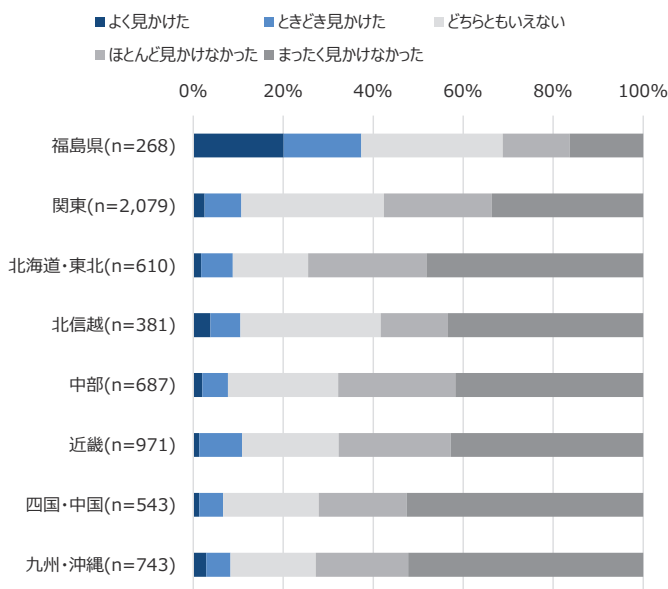
- 福島県内の小売業者3社では、同様の方針で価格を決めていた。
 - 相場が高い時であっても利益を抑えて販売し、相場が安い時には利益を取っている。
 - これは、市場の相場変動よりも小売販売価格の変動を抑えるようにしているためである。
 - 複数の産地を扱う場合、値付けの方法は産地を問わず共通していた。
- 首都圏に展開している小売業者は、魚の殺菌や刺身にするための加工を施すため、小売販売価格は高く設定されていた。
- 福島県産ヒラメの価格形成について、競合産地との明確な違いは見られなかった。

5. 福島県産品に対する認識

福島県産ヒラメを見た経験と購買経験（消費者アンケート）

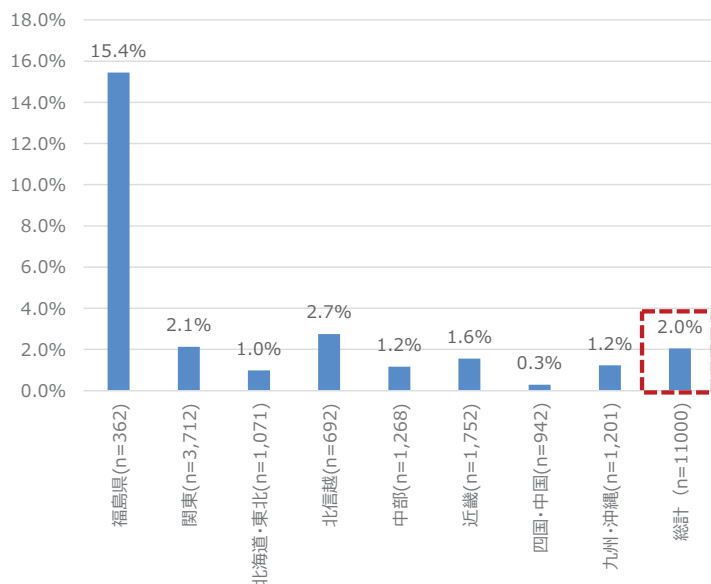
福島県産ヒラメをよく見かけた人の割合は、福島県が高く、他の地域では5%に満たない。福島県産ヒラメを買ったことがあると認識している人の割合も福島県が最も高く、全国では2.0%であった。

福島県産ヒラメを店頭で見えたか



※過去1～2年に、店頭で福島県産ヒラメを見た記憶を尋ねた。
※nは「分からない」を選択した回答者を除いて算出。

福島県産ヒラメの購買経験率



※購買経験率=1度でも購買したことがある人数/回答者数
※記憶に関する質問であるため、産地を認識せず買っていれば購買経験なしとなる。

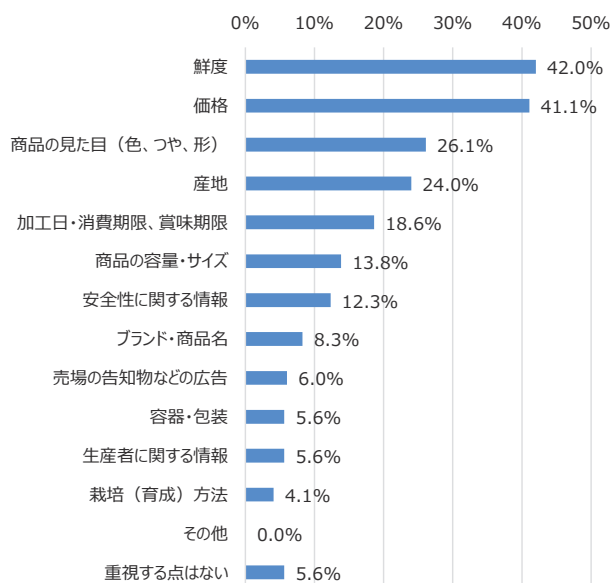
*本頁及び次頁は、平成27年国勢調査における年代別人口比と合わせるため、ウェイトバック集計をしている。

385

ヒラメ購買時の重視点と、購買者の評価（消費者アンケート）

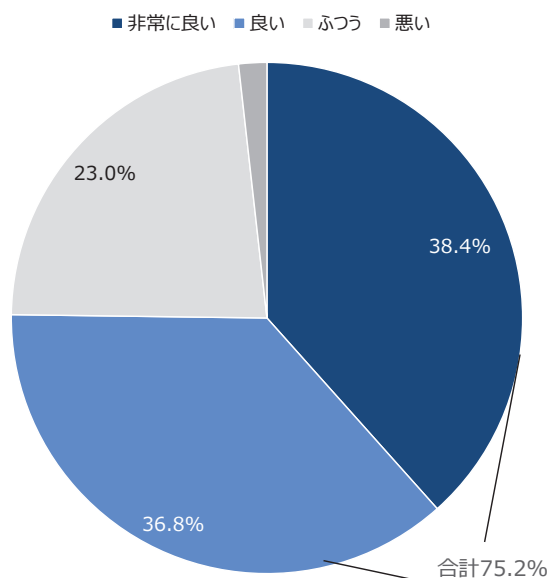
福島県産に限らずヒラメ購買時の重視点を尋ねたところ、「鮮度」と「価格」が上位にあがり、次いで「商品の見た目」と「産地」があがった。福島県産ヒラメの購買者に評価を尋ねたところ、「非常に良い」または「良い」と回答した人が75.2%であった。

ヒラメ購買時の重視点（n=2,421、複数回答）



※ヒラメ購買時の重視点は、福島県産に限らない質問。
※月に1回以上ヒラメを購買している回答者のみに尋ねた質問。

福島県産ヒラメ購買者の評価（n=209）



※福島県産ヒラメを買ったことがある回答者のみに尋ねた質問。
※選択肢には「非常に悪い」という選択肢があったが、本設問では「非常に悪い」を選択した回答者はいなかった。

386